

おお大勝利

平成 31 年度 / 令和元年度 山東サッカー部報第 11 号 (9 月 10 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y2A 第 13 節山形城北 B 戦 薄氷を踏む勝利

9 月 7 日 (土) Y2A 第 13 節山形城北 B 戦が行われました。いよいよ県リーグも残り 2 節。山東はこの試合の前の段階で 8 チーム中 6 位以上を確定させ、**残留が決定**している¹。しかし、1 部と 2 部を行き来してきたこれまでの流れから言って、残留で安堵しているここ 2 年は何とも情けない。こういう戦いが続くと、来年こそは危ない。そう、**昇格を目指しているようなチームでなければ残留もままならない**のが勝負の世界。部員数が少ない山東、**一人一人が伸びてくれないと、チームの向上もない**。「外から取ってくる」わけにはいかないのです。

今節の相手城北 B は、前半戦の戦いこそ無得点の試合が続き、苦しい戦いでしたが、**選育育成工場の異名をとる W 監督**の下、**城北 B の I 淵監督**も選手を着実にたくましく育てあげ、後期は結果が出ない試合でも個々の選手の成長が見て取れる。勢いもある。対する山東、新チームになってから模索続き。良い試合をしてびっくりしたり、何にもできず悪い意味でびっくりしたりの連続。残留は決まっているものの、B には当然勝ちたい意地があるし、少しでも勝ち点を積み上げたいし、少しでも順位を上げたい。そして、勝利を目指す中でプレーの原則を学んでほしい。

さて、会場は山形中央 B。この日、めちゃくちゃ暑かった。7 月は比較的涼しかったのに、9 月に暑さを残していたかのように。今期、リーグの日程を決めるとき、少しでも暑さを考慮した試合時間を設定するという意味から、7 月後半や 9 月前半は許す限り 9:30 キックオフ & 11:30 キックオフにした (開始時間を早めた) が、その効果を初めて感じた日でした。

試合が始まると、この日 **FW で先発した山東 Two Ways 1 年コーセー**がボールを収め起点となり、山東の攻撃をけん引。DF のクリアミスで流れが悪くなる入りも見られない。決して悪い入りではない (良いという程でもないが)。そんな中途半端な流れの中、コーセーが左ターンから良いボールの運び方をし²、この試合**左 SH の 3 年オサ**にパス (確か)。オサは冷静に**右 SH の 2 年ワタル**に配球。ワタルは故障がちということもあり、この日もパフォーマンスは決して安定してはいなかったが、ここでは的確なクロスボール供給。それを、「**山東のヒマラヤ山脈**」**2 年ハク**がダイビング気味にヘディング。しっかりファーサイドに流すコントロール

¹ もっと正確に言うと、2 部の 6 位は残留確定ではありません。もしプリンスリーグから降格チームがあり Y1 の 1 位がプリンスに昇格できなければ、Y1 から Y2 に 3 チームが降格するため、通常より Y2 から 1 チーム多く降格します。具体的には、Y2 の AB2 ブロックの 6 位のうち勝ち点の低い方が降格します。しかし今期、プリンス所属のモンテ A は昇格争いをしており降格はしないため、6 位以上は残留確定です。もし今期 Y1 の 1 位がプリンスに昇格すれば、Y2 からの昇格チームが 3 になるのではなく、Y1 からの降格が 1 チームのみとなります。

² もっと欲張って言うと、右半身を相手に預け、左足でしっかりボールを運べると、コーセーももっとキープ力は上がる。当たり前、仕方ないが、コーセーは FP のトレーニングこれから (伸びしろだね)。これ、ハクにも言えて、ハクはタッパがあり、体の幅もあるんだから、しっかり体を入れながら左足でボールを運べれば、相手はそうやすやすとボールを触れない。ハクが体を使って右に左にボールを運び、ゴール目指す、または、起点となってボールを配球してくれれば、かなり攻撃が安定する。

ヘッド！　ハク、そんな芸当できたのね。山東、初シュートを流れの中から、しかもパスが複数つながった流れの中から、そしてアウトサイドの攻撃から、**ゴール**を決める。こんなしつかり崩した得点、いつぶりだろうか。セットプレーや相手のミスを咎めた形、ロングパス一発の攻撃など、崩し切らない形からの得点がないチームは結果が安定しないのは真実ですが、それしか得点契機がないのは寂しいし、それこそ結果が安定しない。だって相手の対応がまともなら得点できないことを示すから。その後、相手のビルドアップを咎め、**CK ゲッターの異名を返上しゴールゲッターに変貌を遂げつつあるオサ**が左足でドリブルシュートを突き刺し、シュート2本で**山東 2-0**にする。こんな良い前半は記憶にない。しかしその後、攻撃がいつも通り停滞し、相手の攻撃に対するDFの対応も必ずしも良いものではなく、ヒヤッとさせるシーンを複数作ってしまう。課題多し。

後半は腰に故障を抱えるハクに代え、股関節に故障を抱える**2年十カノ**投入。故障者に代え故障者を投入させないきゃいけないところに、今の山東の苦しい台所事情が表れている。ナカノはこれまでのY2Aで「ナカノさ～ん、ちゃんとやってよ」など私から叫ばれる回数が多かったということか、相手のI 渕監督からも自チームへの指示の中で「ナカノさんは・・・だから～～して」などと指示が飛ぶ。ナカノさん、一部で有名になってますよ！　さて、後半はそのナカノが山東の攻撃にフレッシュな勢いを与えてくれる。ただ、正直山東の後半はそれだけしか（見せ場が）なかった。いつもながら奪われ際が悪く³、相手の攻撃をまともに受ける。**二人のボランチも戻りが遅く、相手のボール保持者を後ろから戻って奪うことがまずない。DFもリスクマネジメントができておらず、後半は相手の攻撃を深いところまで許してしまう。**何度か、**2年 GK カザマのナイスセーブ**に助けられる。また、「戻りが遅い」という現象に顕著だが、**現在の山東、攻守の切り替えが遅い**。「守から攻」の切り替えという面では、たとえば相手CKをGKがキャッチした時などに、ポジションに関係なく相手の虚を突き相手ゴール方向に一気にスプリントする選手が見受けられない。そして「攻から守」の切り替えでは、同様の状況で相手に数的優位を作られることが多い。明正戦などは、明正の素早いリスタートに、まったく対応できていなかった。**山東はFKを得てもみんなボールからゆっくり遠ざかるだけで、すぐボールを受け次のプレーに移る選手がゼロ**。もちろん高さのあるチームだからその特徴を生かして、という考えもわかるが、「では本当にセットプレーの得点力あるチームですか」、「長いボールをヘディングする一本調子の攻撃でこれまで得点を重ねていますか」とは問いたところ。要は、**何がチームにとって有利なプレーか、何が自分の活躍につながるか、もっと自由に判断してもいい**。その自由を楽しむスポーツこそ、サッカーなはず。**試合終盤、城北Bの波状攻撃を止められず、失点**し、1点差に迫られる。結局試合はそのままの**スコア 2-1**で**山東が勝利**するも、前半の良い流れを維持できず、試合の終わらせ方もマズかった。攻撃力に期待して**1年テグキチ**を投入するも、試合をゼロで終わらせるために守備力のある選手を投入しなければいけなかったなどの、監督の選手起用上のミスもあった。前半以上に反省点満載の試合でした。

さあ、今週末は地区新人です。公式戦が続きますが、県新人は2年連続で出場できていない。やはり、出たいですね。相手はまたまた明正です。応援よろしくお願いします。

9月14日(土) 地区新人1回戦 山形明正戦 11:00 キックオフ @山形明正G
それに勝つと 同日 2回戦 山形中央と創学館の勝者と対戦 14:10 キックオフ @同上
※15日は別紙参照。14日初戦に負けると、他の試合もなくまさに「それで終わり」です。

³ 縦パスが通らないことは、どんなチームでもあり得る。しかし、横パス・バックパスが通らないと、相手の攻撃をまともに受け苦しくなる。山東は現在、絶対ミスってはいけないパス（横パス・バックパス）も平気でミスる。ミスの中でも区別ができないと、反省のポイントも定まりません。